

IPM実践指標モデル（ハウスみかん）

分類	管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄			
				昨年度の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況	
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	植栽密度（必）	適当な植栽密度とし、通風、作業性をよくするとともに、農薬散布の死角をなくす。	1			
		防虫ネットの設置（必）	側窓には防虫ネットを展張し、害虫の侵入を防止する。	1			
		雨水侵入防止	病害の発生を抑制するため、施設を点検し、雨漏りしないように注意する。	1			
		せん定（必）	せん定時に枯れ枝などを除去する。	1			
			せん定クズはすみやかにほ場外に持ち出して処分するか粉砕して伝染源を減少させる。	1			
		害虫寄生植物の除去（必）	ミカンキロアザミウマ等の増殖・飛来源となる植物がハウス周辺あるいはハウス内にあるときは、可能な限り除去する。	1			
		摘果	間引摘果を行い、果実同士の接触を防ぐ。	1			
		枝吊り、マルチ	枝吊りや敷き草（マルチ）を行い、果実を地表より離す。	1			
		収穫果の取扱い	収穫、調整時及び保管庫内では果実を丁寧に扱い、果実腐敗の発生を最小限に抑える。	1			
判断	タイミニングの判断 （防除要否）	生育状況の把握	灰色かび病：開花状況を把握し、開花盛期に防除を行う。	1			
		病害虫・雑草の観察	ほ場には必ずルーベを持って入り、病害虫や天敵の発生や生態を観察する。	1			
		トラップの設置	黄色粘着トラップ等を施設内と周辺に設置し、害虫の発生動態を知る。	1			
防除	生物的防除	生物農薬の使用	灰色かび病：パチルス・ズブチリス製剤を使用する。	1			
			ミカンハダニ：冬から春にミカンハダニが増加する施設では、スワルスキーカブリダニやミヤコカブリダニを放飼する	1			
		土着天敵の活用（必）	ミカンハダニ、カイガラムシ類等：土着天敵に影響の少ない薬剤を選択する。	1			
	耕種的防除	落弁	灰色かび病：落弁期になったら、花弁を払い落とす。	1			
		物理的防除	捕殺	ゴマダラカミキリ：成虫を捕殺する。	1		
	光反射シートマルチ		施設周囲に1.5m幅以上の光反射シートを設置し、微小昆虫の侵入を抑制する。	1			
	化学的防除	薬剤の選択（必）	農薬を使用する場合には、特定の成分のみを繰り返し使用せず、農薬工業会が提供している作用機作による農薬の分類（IRAC、FRAC）を確認する。さらに、当該地域で薬剤抵抗性が確認されている農薬は当該地域では使用しない。	1			
		散布量の決定	十分な薬効が得られる範囲で、最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定する（薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する）。	1			
		散布方法	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1			
		散布後の処理（必）	散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。	1			
マシン油乳剤の散布		ミカンハダニ：加温前～開花前または剪定後にマシン油乳剤を使用する。	1				
その他	作業日誌（必）	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1				
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業者等へ周知し、情報共有する。	1				
				合計点数			
				評価結果			

*（必）と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。